

イオラニ、 プナホウへの道



ドクター高橋俊明
心理学博士
ドクター高橋塾塾長
宮崎県出身。東京教育大
理学部生物学科卒業。東
京教育大教育学部心理学
科で修士号取得、ハワイ
大心理学部で博士号取得。1968年に川崎市、
69年に文京区、そして77年にホノルルに塾を
設立。2015年は、塾からカメハメハ校に2人、
ハナハウオリ校に3人、イオラニ校に35人、プ
ナホウ校に70人合格。
Web: www.juku-in-hawaii.com
☎808-949-3366 / 808-679-5612 (日本語)

【その137】日本人留学生姉妹がプナホウ校に合格

落ち込んでいた7年生

2014年の10月、ある私立校に通う7年生の日本人女子生徒が母親と来塾しました。母親は言いました「2年前にハワイに来ました。もともと算数が得意な娘は6年生まで良い成績でしたが、7年生になって授業が分からなくなり落ち込んでいます。知人に相談したら、その息子さんが塾に通うようになって、数学ができるようになったというので、今日参りました。」

私は教科書を一見して、「確かにこれは、普通の教科書と違いますね。」と言いつつ、教科書を初めから詳しく見ていくと、著者が言わんとすることが少しずつ分かってきました。そこで提案しました。「お嬢さんが何が分からないか理解できました。時間は少々かかりますが、大丈夫です。いま通っている学校で今学期、数学がトップになるようにします。そのためには明日から1か月間、学校のあ

くください。約1か月でこれまで分からなかったところを総ざらいし、予習ができるまでにします。それから回数を少なくすることが出来ます。」

自信つけ更なる挑戦

10月20日から通塾を始めました生徒は、少しずつ、授業でやっていることが分かるようになっていきました。そこで12時間だった11月中旬から、週2回にし、ファイナルでAを取ることを目指しました。見事、秋学期でAを取った後

でもAを取り、すっかり自信を取り戻しました。そんなある日、「プナホウ校に9年生から行きたいのですが、可能でしょうか」と自信なさげに聞いてきました。私は「不可能ではない。本気で行きたいのなら、道は開ける。」と断言しました。本格的受験勉強の開始は、15年7月7日でした。週2回1時間ずつの個人教授と週末に塾で半日の自習というルーティーンを半年間続けました。そうして迎えた今

年1月のSSATで見事、合格圏内の得点を取ることができました。写真は合格の報告に来た彼女と、姉に刺激され一緒にプナホウ校受験をして7年生に合格した妹です。

偶然な一期一会

落ち込んでいた生徒にとって、勇気づける言葉ほど大切なものはありません。確信ある言葉の響きが、心の暗雲を消し希望の灯をつけます。そして勝ち得た成功体験は、その後の生徒の人生を必ず大きく変えます。塾での生徒との出会いはまさに一期一会。一人の人生が一瞬で変わるのです。以下は作家の柳田邦夫氏の言葉です。

「素晴らしい言葉は命と響き合い、時を超えて命を繋いでいく。私はよくそう思う。繋がる命とは、単に親子代々の血の繋がりでなく、無縁の他者であっても、言葉によって躍動した生き方のエピソードが伝えられることによつて、鎖のように命の躍動が繋がっていくという豊かな膨らみのあるものなのだ。そして、その命を繋ぐ錠（かすがい）となるものは何かと言えば、それは時として、いやほとんどの場合、不思議な

偶然なのだ。『意味のある偶然』というものは、頭の中で理屈で考えたものでは、本当にわかったという域に達することはできないだろう。人生の崖っ縁（ぶち）に立たされたような状況や心を激しく揺さぶられるような体験を通して初めて、腹の底にどすんと落ちるような形でわかったという納得感が得られるものなのだ。そういう形で、『意味のある偶然』を体験すると、その後の心の持ち方が柔らかく膨らみのあるものになったり、何か目に見えない大いなるものに加護されているような心境になったりして、心が穏やかな日々を享受できるようになるものだ」



9年生合格のアンリ



7年生合格のアズサ